

## [年度]平成20年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名]「川田温州」は芽かき・摘心処理により結実が向上する

### [要約]

「川田温州」は、長さ20cm以上の新梢を樹全体で芽かきし、花周辺では新梢を基部から2～5節を残して摘心、また果梗枝を基部から剪除すると結実が促進される。強勢で新梢が多い場合は新梢伸長抑制剤（バウンティフロアブル）の散布を併用すると新梢長が短くなり、結実率がより高まる。

[キーワード] 川田温州、芽かき、摘心、結実促進、バウンティフロアブル

[担当機関名] 果樹試験場 栽培部 [連絡先] 0737-52-4320

[部 会 名] 果樹部会

[分 類] 普及

### [背景・ねらい]

「川田温州」は、浮き皮が少なく、糖度が高い食味良好な普通温州で、秋冬期の温暖化に強い品種の一つとして有望視されているが、生理落果が激しく結実が安定しないなど隔年結果性が非常に強いため、植栽が進んでいない状況である。

そこで、「川田温州」の安定生産を図るため、新梢の芽かき・摘心処理や新梢伸長抑制剤の散布が結実に及ぼす影響を調査する。

### [成果の内容]

1. 第1次生理落果は5月中旬から始まり、6月上旬にピークを迎え、6月中旬に終了する。生理落果の波相は着花量に関わらず同様のパターンを示す(図1)。第2次生理落果は、幼果期に高温・乾燥を受けると7月末まで続く(データ省略)。
2. 着花が少ない園では、第1次生理落果後の結実率は、芽かき・摘心処理により高く、着果枝率も高い(表1)。
3. 芽かき・摘心処理にバウンティ処理を併用すると新梢長が短く、結実率がさらに高まる(表2)。
4. 前年摘心処理した枝には果実が結実し、その品質は良好である(写真2)。

### [成果の活用面・留意点]

1. 剪定は、間引き剪定主体の軽めとし、芽かき・摘心処理は、2年連続して行うと結実がより安定する。
2. バウンティ処理のみでは、樹勢や散布時期、濃度等により効果が小さい場合があるので新梢が多く、長い場合は、芽かき・摘心処理を併用する。



写真1 新梢の摘心と果梗枝の剪除



写真2 前年摘心した枝への結実状況

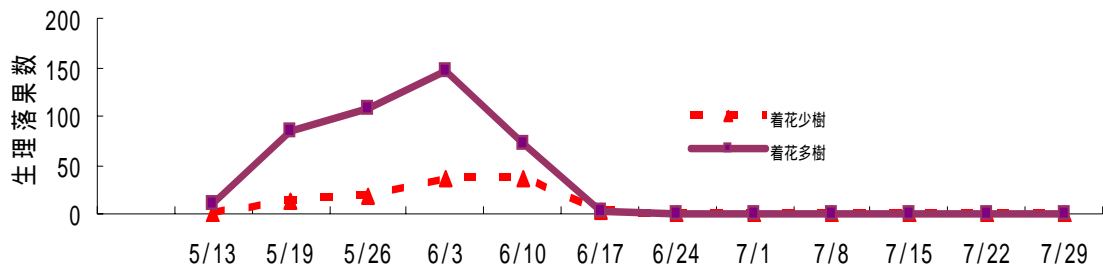


図1 川田温州における着花程度と生理落果の推移(2008)

表1 芽かき・摘心処理が結実促進に及ぼす影響

処理区	着花量	新梢量	着果枝率 (%)		結実率 (%)	
			6月20日	8月24日	6月20日	8月24日
5:甚多 ~ 3:中 ~ 1:甚小						
芽かき・摘心区	1.5	4.7	70	70	7.0	7.0
無処理区	1.5	4.7	30	27	2.0	1.7
有意性	-	-	*	*	n.s.	*

注)\*\*は1%水準で、\*は5%水準で有意差のあることを、n.s.は有意差の無いことを示す。

場所:有田川町平坦園、着花量・新梢発生量:達観調査

芽かき・摘心処理:5月16日、約20cm以上の新梢を芽かき、花周辺は2~5節に摘心

表2 芽かき・摘心処理樹におけるパウンティ処理が新梢及び結実に及ぼす影響

処理区	着花量	新梢発生量	新梢			結実率 (%)		
			新梢長	節数	節間長	6月20日	8月24日	
5:甚多 ~ 3:中 ~ 1:甚小								
			cm	節	cm/節			
パウンティ処理区	3.0	2.7	6.0	6.6	0.9	64	45	
無散布区	3.3	2.5	8.5	7.8	1.1	38	29	
有意性	-	-	*	n.s.	n.s.	*	**	

調査場所:有田市階段園

パウンティ処理:4月6日に500倍液を散布

芽かき・摘心処理:5月1日~、約20cm以上の新梢を芽かき、花周辺は2~5節に摘心

新梢長、節数、節間長は6月下旬に調査

[その他]

研究課題名: 旨さ抜群! じゃじゃ馬みかんを作りこなそう(戦略プラン)

予算区分: 県単

研究期間: 平成19~21年

研究担当者: 森口幸宣、萩平淳也、中地克之

発表論文等: なし